

まだまだ調子がいいと思っても、日々の農作業で知らず知らずのうちに機械にも負担がかかっています。

## コンバインの点検整備



下記は点検整備の一例です。

### 刈取部



**使用後の状態 ①**  
1シーズン使用すると、ケース内にワラ・泥が侵入します。またチェーンも伸びます。このまま使用すると故障の原因になります。

**点検整備内容**  
引き出し、搬送ケースを分解し、清掃・洗浄・チェーンの調整・注油などを行います。



**使用後の状態 ②**  
刈刃、刈刃駆動部分は泥の侵入が多く、最も消耗の激しい部分です。切れ味が悪くなると搬送が詰まりやすく、こぎ残しの原因になります。

**点検整備内容**  
清掃・洗浄を行い、不具合部品の交換と共に刈刃には注油、ベアリングにはグリス注油などを行います。

### 脱穀部



**使用後の状態 ①**  
ベルトがゆるんでいます。そのまま使用すると、作業途中でベルトが切れるなどのトラブルが発生します。100時間毎の点検をおすすめします。

**点検整備内容**  
ベルトを適正に調整すると共に、不具合部品の修正・交換をおすすめします。



**使用後の状態 ②**  
切刃が磨耗すると損失米が多くなります。また脱粒する扱歯が磨耗すると、クランプ網が損傷します。300時間毎の点検をおすすめします。

**点検整備内容**  
切刃・扱歯の磨耗程度を点検し、磨耗基準を超えている場合は交換をおすすめします。



**使用後の状態 ③**  
フィードチェーン、排ワラチェーンが伸びてくると、稲ワラをスムーズに搬送できなくなります。また、カッター刃も磨耗すると切断状態が悪くなります。

**点検整備内容**  
フィードチェーン、排ワラチェーンを適正に張り、オイル注入をします。カッター刃の磨耗基準を超えているものは交換をおすすめします。

### 走行部



**使用後の状態 ①**  
クローラが伸びて、外れやすくなっています。また、農作業によりクローラが損傷しています。シーズン毎の点検をおすすめします。

**点検整備内容**  
クローラを適正に張ると共に、各転輪へグリス注入を行い、耐久性を向上させます。損傷が激しい場合、クローラの交換をおすすめします。



**使用後の状態 ②**  
足回りに泥がついたままの状態だと、サビつきが早まります。また、トラブルの発見が遅れ、作業中の故障につながります。

**点検整備内容**  
洗車・清掃し、油漏れの確認を行います。オイルやフィルターの交換基準をすぎている場合は、交換をおすすめします。

## トラクターの点検整備



下記は点検整備の一例です。

### ロータリー部



**使用後の状態 ①**  
チェーンケースのオイル量が少なくなると、チェーンの伸びが発生します。また、爪の磨耗があると、耕うんムラの原因となります。

**点検整備内容**  
チェーンケースからのオイル漏れを点検。また、爪・爪軸の点検と爪ボルトの増し締めを行います。カバー類も点検を行います。

### 作業機連結部・油圧装置



**使用後の状態 ①**  
作業連結部は、常に大きな力が加わるため、ガタつきがでると思われ故障に繋がります。また油圧シリンダー・ホースに損傷があると、作動不良の原因になります。

**点検整備内容**  
作業連結部のガタ・損傷を点検し、ドライブシャフトへのグリス注入を行います。また、油漏れをチェックし、トラブルを防ぎます。

### 走行部



**使用後の状態 ①**  
ホイール、ナットがゆるんでいると危険です。タイヤの空気圧が減っています。50時間毎の点検をおすすめします。

**点検整備内容**  
タイヤの空気圧を適正にし、ホイールボルト、ナットを規定トルクで増し締めします。



**使用後の状態 ②**  
車軸からオイル漏れが発生しています。放置すると、ベアリングやギアなどの故障にもつながります。

**点検整備内容**  
オイルの状態や漏れの有無を点検します。オイル漏れを発見した場合、オイルシールやガスケット等の交換を行います。

### エンジン部



**使用後の状態 ①**  
ホコリでラジエターが目詰まりして冷却水が減少しています。また、ファンベルトがゆるんでおり、オーバーヒートの原因となります。

**点検整備内容**  
ラジエターを清掃し、冷却水の状態をチェックします。ファンベルトを適正に調整します。

### 電気系統



**使用後の状態 ①**  
水平制御や深さ制御などの自動化装置の調子が悪いと、作業の仕上がりが悪くなります。

**点検整備内容**  
自動化装置が適正に作動するように調整します。

※ エンジン部、電気系統は、コンバイン・田植機でも点検いたします。

## 田植機の点検整備

下記は点検整備の一例です。



### 植付部・苗載台



**使用後の状態 ①**  
植付爪やプッシュロッドが磨耗・変形すると苗を正しく植えられず、転び苗や欠株・苗の取り量のバラツキの原因となります。

**点検整備内容**  
植付爪・プッシュロッドを点検し、苗取り量を適正に調整します。苗載台・フロート部の作動確認を行い、可動部に注油・グリス注入をします。

### 側条施肥機



**使用後の状態 ①**  
目皿が磨耗したり、作動不良があると、その条だけ肥料の量が変わり生育ムラにつながります。300時間毎の点検をお勧めします。

**点検整備内容**  
肥料ホッパー・タンクから、ノズルまでの区間を清掃・作動点検を行います。損傷や磨耗基準を超えた部品は交換をおすすめします。

### オイル関係



**使用後の状態 ①**  
エンジンオイルが少なくなっています。また、汚れて黒くなっています。およそ100時間毎の点検をおすすめします。

**点検整備内容**  
エンジンオイルの状態や量を確認します。ミッションオイルや車軸ケースオイル等も点検します。

### 走行部



**使用後の状態 ①**  
駆動ベルトが劣化すると、田んぼでの走行ができなくなります。また、植付性能も低下します。

**点検整備内容**  
ベルトの摩耗やヒビ等状態を確認し、交換や調整を行います。

お客さまからお預かりした機械は、大切に点検整備を行います。